

三保松原景観改善技術フォローアップ会議 設立趣意

三保松原は、日本三大松原のひとつにも数えられ、美しい砂浜と背後の松林が織り成す白砂青松の海岸は、霊峰富士を望む日本有数の景勝地として全国にその名を知られている。また、万葉集に登場して以降、数多くの和歌や浮世絵、絵画の題材となるなど芸術の源泉としても名高く、平成25年6月には、世界文化遺産「富士山」の構成資産として世界遺産一覧表に記載された。

しかし世界文化遺産の登録過程において、砂浜背後の人命・財産を守るために大きな役割を果たしてきた消波ブロックの存在が、審美的観点において望ましくないという指摘を受けたことから、これまでの経験と先端の知見・技術を駆使し、防護と景観の両者を高い次元で調和させた、世界文化遺産にふさわしい新たな海岸づくりの姿を提示するため、「三保松原白砂青松保全技術会議」を設立した。

上記会議は、平成25年9月から平成27年2月にかけて計4回開催され、検討成果として、基本理念や目指すべき姿（長期対策）、砂浜が回復するまでの措置（短期・中期対策）などがとりまとめられたが、今後実施する施設の設計や施工、モニタリング等において、段階に応じた技術的な検討や評価、評価結果に基づく順応的な対策の見直しを実施し、対策の着実な推進による目指す海岸の姿の実現を図る必要がある。

このため、三保松原の海岸における景観改善と海岸保全の両立のための対策について、対策の推進と順応的な見直しを図るための方策等を検討し、段階に応じた的確なフォローアップを実施することを目的に、本会議を設立するものである。